

令和5年度 授業評価アンケートに関する
相互評価による指導・助言の為の
相互評価報告書

令和6(2024)年3月

自己評価大学：長崎短期大学
相互評価大学：別府大学短期大学部

【相互評価報告】

1. 総評

学期末に加えてクォーター終了時の年4回のWEBアンケートが実施されている。アンケート結果は質問項目が5カテゴリーに分類され、学科や授業形態ごとに分析されている。分析結果は教員へフィードバックされ授業改善やティーチングポートフォリオ作成に活用されるほか、全学組織で共有され教育の質保証にむけた大学改革に活用されている。授業評価と授業改善のサイクルが、全学的に適切に実行されている。

2. 視点ごとの評価

視点① 学生による授業評価アンケートの実施

学期末だけでなく、1クォーター、3クォーター終了時にもアンケートを実施することで、学生がクォーター授業終了直後の適切な時期にアンケートに回答できるよう工夫されていることがわかる。評価項目は「準備導入」「授業内容」「学生への配慮」「総合評価」「学生の姿勢・意欲」の5カテゴリーにわたり構成されている。また、期末の授業評価アンケートだけでなく中間アンケートを実施してその結果を履修者にフィードバックするなどの取組は、学期途中であっても柔軟に授業改善に取り組む姿勢や成果を教員・学生双方が確認できる取組となっている。

視点② IR業務を担当する者による分析

「学年別」「学科別」に加えて講義形態「講義」「演習」「実習」ごとの分析が行われている。カテゴリー間のクロス分析等による授業満足度向上への要因分析を構想中であり、今後の分析が検討されている。特色ある取り組みである中間アンケートの実施による授業改善の検証なども今後のIR分析が期待される。R4年度はアンケート回答率が改善している点からもIR分析が適切に実施されていると評価できる。

視点③ 授業評価アンケート分析結果のフィードバック

授業評価のアンケート集計結果は大学改革IR委員会および運営会議の場において報告・フィードバックがされている。教員は授業評価の結果を基にティーチングポートフォリオを作成し、ホームページで公開されている。フィードバックが授業改善・大学改革に繋がるように全学組織で共有され、同時に学生にも公表されており、分析結果が適切に活用されている。

上記のとおり、評価しましたので、報告します。

令和6年3月27日

評価者：別府大学短期大学部 役職 IR副センター長・副学長・学長補佐（教務担当）
氏名 後藤 善友